



カトリック中央協議会
CATHOLIC BISHOPS' CONFERENCE OF JAPAN

会 報

《2012年8月号（494号）》

目 次

報 告	
・ 定例司教総会	1
・ 常任司教委員会	3
・ 列聖列福特別委員会	5
・ 学校教育委員会	6
・ カリタスジャパン	7
・ 正義と平和協議会	8
・ 日本キリスト教連合会	10
・ 外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会.....	11
・ 中央協議会事務局（総務）	12
公文書	12

定例司教総会

■2012年度定例司教総会

日 時	2012年6月19日（火）14:00－6月22日（金）12:00	
場 所	日本カトリック会館 マレラホール	
出席者	会 員	17人
	来 賓	1人
	オブザーバー	4人
	総会事務局	8人

報 告

1. 第 50 回国際聖体大会について

2012 年 6 月 10 日－17 日にアイルランドのダブリンで開催された第 50 回国際聖体大会に、巡礼団長として参加した幸田和生司教から報告が行われた。大会のテーマは「聖体・キリストとの一致、わたしたち同士の一致」。大会期間中、司教によるカテケージスや聖体行列を行った。また、聖コロンバン会本部を訪問し、日本で宣教した司祭たちから歓迎を受けた。

2. 修道会固有の典礼式文認可の取り扱いについて

日本カトリック典礼委員会委員長の判断で、個別に対応してきた修道会固有の典礼式文の認可について、今後は教皇庁典礼秘跡省が 2001 年に発表した指針 *Liturgiam authenticam* に規定された事項に基づき対応することとし、修道会固有の典礼式文の認証に関しては、式文を典礼委員会が校閲することが報告された。

3. カトリック教会敷地内における警察官による捜査および逮捕行為について

5 月 27 日（日）に川崎臨港警察の捜査員が横浜教区・貝塚教会敷地内に入り、長期滞在の容疑がある外国籍の人を職務質問の上、令状なしに旅券、外国人登録証不携帯で教会敷地内で緊急逮捕、警察署に連行したことについて報告が行われた。この件に関しては、カトリック教会において重大な支障を及ぼすものであること、また、信教の自由という基本的人権を侵害する行為であることから、6 月 5 日に横浜教区・梅村昌弘司教名で川崎臨港警察署長あてに申し入れ書を提出した。その後、6 月 12 日付で、同警察署長から回答書が届き、教会内への署員の立入行為について不適切であったこと、当日教会に集まった人へ迷惑をかけたわびと警察活動を推進するためには、信教の自由を含む基本的人権を尊重することが記載されていた。

4. 日本二十六聖人列聖 150 周年記念行事について

2012 年 6 月 8 日（金）－10 日（日）に、駐日教皇大使ジョゼフ・チェノットゥ大司教を迎えて、京都教区、広島教区、長崎教区で日本二十六聖人列聖 150 周年記念ミサと記念行事を行った報告が当該司教から行われた。京都教区では河原町教会で記念ミサ、広島教区では、聖ディエゴ喜斎記念公園巡礼と岡山教会での記念ミサ、長崎教区では「日本カトリック長崎・西坂巡礼所」の銘板除幕式、「椿の植樹」祝福式、浦上教会での記念ミサが行われた。

5. 第 17 回日韓学生交流会、第 18 回日韓青年交流会について

2011 年 2 月 17 日－22 日に韓国・馬山教区にて開催された、第 17 回カトリック日韓学生交流会および 2012 年 2 月 16 日－21 日に大阪教区にて開催された第 18 回カトリック日韓青年交流会の報告が行われた。次回、第 19 回（韓国・済州教区／2013 年 2 月）と第 20 回（日本）の企画運営は、長崎教会管区の担当となる。

6. 『司牧の手引き』編纂特別委員会作業について

「司牧の手引き・婚姻」の再版ならびに「司牧の手引き・葬儀」の作成にあたり、2012 年 1 月の常任司教委員会の勧めに従って実施したアンケートの集計結果について報告が行われた。『司牧の手引き』編纂特別委員会では、今後、アンケート集計結果にもとづき、婚姻編の改訂、葬儀編の作成作業を行っていく予定。

審 議

1. 聖人固有のミサの「公式祈願」改訂訳について

本司教総会での諸意見を加味して修正した聖人固有のミサの「公式祈願」改訂訳を、教皇庁典礼秘跡省へ提出することが承認された。

2. 2013 年 WYD リオデジャネイロ大会に向けた取り組みについて

2013 年 WYD リオデジャネイロ大会に向けた取り組みに関して、本司教総会に提案された方針が承認された。2013 年 WYD については、青少年司牧部門が日本公式巡礼団を組織し、準備と運営のために、「リオ大会運営委員会」を部門のもとに置くこととなる。また、2014 年 8 月に WYD 日本版を開催することが決定し、青少年司牧部門が開催に向けての実行委員会を 2013 年 WYD 終了をめぐりに組織し、同実行委員会が

準備と運営に当たる。

3. ユスト高山右近の早期列福を求める全司教連名による要望書提出について
ユスト高山右近の早期列福を求める全司教連名による要望書を、教皇庁列聖省に提出することが承認された。
4. ユスト高山右近列聖のための募金活動開始について
ユスト高山右近の列聖運動に関連し、日本カトリック司教協議会が募金活動を行うことが承認された。募金活動の具体的内容は以下のとおり。
目的 ① ユスト高山右近の列福・列聖を実現させるために必要な活動の費用を広く募る。
② 募金活動をとおして、右近の列聖に対する全信者の意識を高める。
募金の責任者 日本カトリック司教協議会 列聖列福特別委員会 委員長
募金目標額 100,000,000 円
募金期間 開始 2012 年秋
終了 列聖式および当司教協議会が主催・共催または後援する関連公式行事終了時
5. 「信仰年」にあたっての司教協議会としての取り組みについて
教皇ベネディクト十六世の意向に従い、日本の司教協議会として、本司教総会に提案された諸事項を参考にして「信仰年」に取り組むことが承認された。なお、具体的な方法については、常任司教委員会で検討を行う。
6. 2011 年度カトリック中央協議会収支決算書案について
2011 年度カトリック中央協議会収支決算書案を、2011 年度カトリック中央協議会収支決算書として承認した。
7. カトリック教会敷地内における警察官による捜査および逮捕行為に対する司教協議会としての対応について
カトリック貝塚教会敷地内における警察官による捜査および逮捕行為に対して、日本カトリック司教協議会として、国家公安委員会委員長および警察庁長官あてに要請を行うことを承認し、本司教総会での諸意見を加味して修正した要請書を日本カトリック司教協議会会長および会員一同名にて提出する。

常任司教委員会

■6 月定例常任司教委員会

日 時 2012 年 6 月 7 日 (木) 10 : 00 - 14 : 50

場 所 日本カトリック会館 会議室 2

出席者 委 員 7 人

事務局 8 人

報 告

1. 韓国・ソウル教区新大司教任命について
2012 年 5 月 10 日、教皇ベネディクト十六世は、韓国・ソウル大司教区のニコラス鄭鎮奭枢機卿 (Nicholas Cheong jin-suk) の引退を認め、同教区の補佐司教を務めていたアンドレア廉洙政司教 (Andrew Yeom Soo-jung) を後任の大司教に任命した。
2. 修道会管区長会代表者交代について
5 月に開催された年次総会にて日本カトリック管区長協議会役員改選が行われ、会長に瀬戸高志師 (レズンプートル会東京準管区)、副会長に梶山義夫師 (イエズス会) が選任された。また、日本女子修道会総長管区長会でも役員改選が行われ、会長に千葉佳子修道女 (シャルトル聖パウロ修道女会)、副会長に川端春美修道女 (イエスのカリタス修道女会) が選任された。

3. 2013年祈祷の使徒「日本の教会の意向」確定版について
5月の常任司教委員会の諸意見に基づき、2013年祈祷の使徒「日本の教会の意向」を修正したことが報告された。
4. カトリック教会敷地内における警察官による捜査および逮捕行為について
5月27日(日)12時30分頃、川崎臨港警察の捜査員6~8人が横浜教区・貝塚教会敷地内に入り、長期滞在の容疑がある外国籍の人を職務質問の上、旅券、外国人登録証不携帯で教会敷地内で緊急逮捕、警察署に連行した。この件に関しては、カトリック教会において重大な支障を及ぼすものであること、また、信教の自由という基本的人権を侵害する行為であることから、6月5日に横浜教区・梅村昌弘司教名で神奈川県川崎臨港警察署長あてに申し入れ書を提出したことが、貝塚教会主任司祭・本柳孝司師から難民移住移動者委員会に通知された。同案件については、6月に開催される定例司教総会で報告を行う。
5. 東日本大震災に関するカリタスジャパンの対応について
東日本大震災にあたっての、現在までの募金状況と活動状況がカリタスジャパン・菊地 功司教から報告された。5月31日現在のカリタスジャパンへの募金は、704百万円、国際カリタスからの募金が586百万円で計1290百万円、援助金支出は、772百万円となった。
6. 中央協議会の口座に入金された義援金について
5月31日現在、中央協議会の口座に入金された東日本大震災関連の義援金とその用途に関する報告が行われた。義援金総額は73,350,693円、支出合計は、19,925,674円、残高は53,425,019円となった。
7. 高山右近の早期列福を求める巡礼団の企画について
2012年10月22日-31日に、高山右近の列福の早期実現を要請し、信仰年の始まりと日本再宣教150周年の感謝をこめて、再宣教ゆかりの地を巡礼する「右近列福祈願と再宣教150年感謝の信仰年・司教団公式巡礼」を列聖列福特別委員会が企画することが報告された。団長は池長 潤大司教、同行司教は大塚喜直司教、溝部 脩司教。主な訪問地は、ローマ、フォルカード司教ゆかりの地であるプロヴァンス、ヌヴェール、ルルドなど。

審 議

1. 2012年度定例司教総会内容確定について
本年6月19日から開催する定例司教総会の審議内容を確定した。(詳細は定例司教総会報告参照)
2. 「信仰年」に関する日本の教会としての取り組みについて
司教協議会としての「信仰年」に対する取り組みについては、池長大司教、岡田大司教の意見を取り入れてまとめた高見大司教からの提案に、本常任司教委員会での諸意見を加えて、再度高見大司教が提案を整え、2012年度定例司教総会に諮る。
3. 「なんみんフォーラムFRJ」への支援募金の呼びかけについて
カリタスジャパン、日本カトリック難民移住移動者委員会が加盟している、日本にいる難民の支援ネットワーク団体、「特定非営利活動法人なんみんフォーラムFRJ」への支援募金を全国の教会に呼びかけることを承認した。
4. 2011年度カトリック中央協議会収支決算書案について
財務委員会から提出された2011年度カトリック中央協議会収支決算書案を、2012年度定例司教総会へ常任司教委員会から提出する正式な同収支決算書案とすることを承認した。
5. 中央協議会発行出版物の企画承認について
 - ①出版審議会から提出された以下の書籍を中央協議会から発行することと、出版企画書を承認した。
書籍名 小冊子「続 自死の現実を見つめて」(仮題)
編 者 カリタスジャパン 啓発部会
 - ②中央協議会発行出版物で絶版になる書籍は以下のとおり。
 - 1) 教皇庁教理聖省(現・教理省)『幼児洗礼に関する訓令』
 - 2) 教皇庁信徒評議会『高齢者の尊厳と使命』

3) 教皇ベネディクト十六世『司祭職』

*1)と2)は本文をPDF化して中央協議会Webサイトの「Web文書館」で公開する。3)はもうすでに中央協議会Webサイトで公開しているので、その後の対応はしない。

列聖列福特別委員会

■2012年度第1回委員会

日 時 2012年6月1日(金) 9:00-12:00
場 所 日本カトリック会館 会議室4
出席者 11人

報 告

委員長

1. 人事

岡田武夫大司教(東京大司教区)は、同教区司祭 久富達雄師(板橋教会主任司祭)を当委員会の委員に推薦し、日本カトリック司教協議会会長 池長 潤大司教は、同師を当委員会の委員に選任した。任期は、2013年8月末日。

久富師と現委員の自己紹介を行った。

2. 日本二十六聖人列聖記念行事

6月8日(金)にカテドラル河原町教会(京都教区)、9日(土)岡山教会(広島教区)、10日(日)長崎市内の各地で、記念行事が行われる。

審 議

1. 高山右近の列聖申請書類の確定

改訂作業がほぼ終了した列聖申請書類を1983年と2000年に改訂された列聖省施行規則(Normae Servandae)に沿った形式に合わせて再構成する作業を行っている。これが終わり次第、当委員会の法務部会(Tribunale)で承認し、他の必要書類と併せて製本し、それを封印して列聖省に提出する。日本側で作成した申請書が、列聖省の専門委員会(歴史部会と神学部会)で審査され、殉教認定の可否の投票が行われる。その結果を反映して列聖省によって作成される文書が‘positio’である。positioが出れば、列福は時間の問題である。そこで申請書の提出と並行して、6月の定例司教総会で、列福の早期実現を求める要望書に全司教の署名をもらう予定である。

2. 右近の生涯を紹介する書籍の発行

右近の生涯と霊性を総合的に紹介する書籍の編集を古巣委員に委嘱した。前回の委員会で、書籍の内容・作業日程などの概要を決めた。今回は、書籍に盛り込む訴求点を明確にし、それらを深めていきたい。委員会では、右近の生涯の根底に流れる霊性について絞り込む作業を行った。まず古巣師の素案を読み合わせ、意見を交換した。発行を予定する書籍は、この素案の骨格を保ちながら、溝部顧問司教が、列聖申請資料用に執筆した原稿の内容や歴史的事実などを付け加える。

3. 右近の遺骨の調査

列聖省が定める列聖申請規則 n. 28 は、当該者の墓所の保存状況を列聖申請書に記載するよう定めている。そこで大塚委員長と溝部顧問司教、De Luca 委員、平林秘書、川邨師、鶴飼恵里香さん(SIGNIS JAPAN)が、6月12日-15日、フィリピン・マニラを訪問して、ノバリチェス(Novaliches)にあるイエズス

会修練院を訪ね、右近の墓所を開いて調査する。(詳細は次号で報告)

4. 右近の早期列福を求める巡礼団の企画

池長大司教、大塚委員長、溝部顧問司教が、全司教連名による列福の早期実現の要望書を巡礼団とともに列聖省に届けることが決まっている。今回の委員会で概要を決定した。当巡礼には、パリ外国宣教会日本管区とシャルトル聖パウロ修道女会日本管区が、会員の派遣を含め協力を申し出ている。(詳細は後述)

なお代理店の選定基準として、第1種旅行業の免許を条件とすることを確認した。第2種旅行業、第3種旅行業および旅行者代理業者、第1種旅行業者の名義借りをを行っている業者は除外する。

司教団公式巡礼のお知らせ

巡礼の名称	「右近列福祈願司教団公式巡礼 再宣教 150年の感謝と信仰年に寄せて」
日程	2012年10月22日(月)－11月1日(木) 11日間
巡礼の趣旨	右近の列福の早期実現を列聖省に要請する。併せて、信仰年に当たり、日本再宣教150周年を記念し、フォルカード司教ゆかりの地やパリ外国宣教会本部を訪れる。
主な訪問地	ローマの後、エクスアンプロヴァンス(フォルカード司教ゆかりの地)、パリ(パリ外国宣教会本部)、ヌヴェール(聖ベルナデッタの墓所)、ルルドなど。
募集人員	成田発・関空発合計 60人
代理店	ISA トラベル株式会社(フリーダイヤル 0120-724-530)
旅行代金	398,000円※(関空発) 393,000円※(成田発) ※諸税別。なお早期申込み割引有。

次回会議 2012年9月3日(月)－5日(水)

学校教育委員会

■第134回 学校教育委員会

日時 2012年6月7日(木) 15:30－17:30
場所 日本カトリック会館 会議室4
出席者 7人

報告

1. 「第25回 校長・理事長・総長管区長の集い(集い)」について

日時 2012年4月28日(土)－29日(日)
場所 都市センターホテル(東京・千代田区)
テーマ カトリック学校の原点を求めて
参加者 218人(司教4人を含む)

初日は、『キリスト教理解のために』(学校教育委員会編・2011年刊)の執筆者二人(並木豊勝師・岩島忠彦師)による講演と、実際にこの本を活用した学校の事例報告を行った。

2日目は、「カトリック学校の存廃問題に対する司教団の対応規定」(2001年6月定例司教総会承認)と「日本カトリック学校としての自己点検評価基準」(1997年日本カトリック司教協議会承認)を取り上げ、事前に行ったアンケートを基に分科会や全体会で意見交換を行い、ミサで「集い」を終了した。

- 事務局より『第25回 集い』会計報告書について
- 品田委員より「カトリック学校連合会の動き」について

審 議

1. 「第 25 回 集い」振り返り（「終了後のアンケート」の意見など）
 - (1) 講演について
 - ・『キリスト教理解のために』の中身と教育現場をつなげた内容になっていた点がよかった。
 - ・参加者が冊子を読んだ上で講演を聴けたことが、より深い理解につながったのではないか。
 - (2) 分科会について
 - ・司教の参加がうれしかった。
 - ・分科会で話し合われたことを、全体会でどう扱っていくかの課題が残った。
 - ・分かち合いができ、他の学校のことも聞けて励まされたという意見があった。
 - (3) 全体会について
 - ・内容について厳しい意見もあったが、全体をまとめるのは難しい。
 - ・事前に実施した「司教団承認文書等についてのアンケート」の主旨を、改めてもう一度会場で説明する必要があった。
 - ・『キリスト教理解のために』を実際に使っている学校の事例報告がよかった。
2. 「長崎・五島研修旅行（2013 年 8 月 20 日―23 日）」について
 - (1) 行程
 - ・「長崎・外海プログラム」は、時間と費用を考慮し、オプションとするか検討する。
 - ・悪天候による欠航時の代替案を用意しておく必要がある。
 - ・今回は、品田委員と清水委員が引率者として同行する。
 - (2) 今後の進め方
今年中にスケジュールを確定し、来年初めに各学校へ案内を郵送する。
3. 9 月合宿について
 - (1) スケジュール
9 月 16 日（日）12 時に会場（富士箱根ランド）に集合、昼食後会議に入る。
9 月 17 日（月・祝）午前の会議終了後、昼食、その後解散。
 - (2) 議題
 - ①「2012 年度臨時司教総会」（2013 年 2 月開催）議案提出に向けての準備
 - ②来年度「集い」で扱うテーマ
 - ③委員会編集の冊子続刊について
 - ・「信仰年」を迎えているが、宣教とは程遠い現代の状況を考え、目に見える世界にしか興味をもたない現代人に、カトリックの世界観を大きく投げかけていくような冊子ができないか。
 - ・クリスチャンでない教師が、日々の教育活動において、どのようにキリスト教の教育原理を意識し適用していくかの具体的な手引き書が欲しいという声があった。
4. 委員補充について
委員候補者として、3 人の名前が挙げられた。

次回作業部会 2012 年 8 月 13 日（月）10：00―15：00 イエズス会 岐部修道院（東京・千代田区）
次回会議 2012 年 9 月 16 日（日）―17 日（月・祝） 富士箱根ランド（静岡・田方郡）

カリタスジャパン

■第 2 回援助部会会議

日 時 2012 年 6 月 8 日（金）13：00―17：00
場 所 日本カトリック会館 会議室 4

出席者 8人

報 告

1. モンゴル視察（5月22日-27日）
3年間の支援が終了した幼稚園の視察（評価）と、今後の協力について協議。
2. 東日本大震災対応会議と現地視察報告
3. 海外および東日本大震災の募金・援助実績報告

審 議

1. カリタスアジア総会費用の一部負担について
5カ国のカリタス代表者の交通費に関して、合計6,750 USドルを今年に限って支援することを決定。
2. 東日本大震災対応について
現況報告と意見交換を行った。カリタスジャパンとしての今後の関わり方および体制作りについて、関係者間で話し合いを持つ。
3. 一般援助審査 計9件（国内1、海外8）を審査し、3件（国内1、海外2）を次回委員会へ付託、6件を却下とした。
4. 国際カリタス緊急支援要請(Emergency Appeal/EA) 以下2件の支援を決定。
(1) コンゴ民主共和国「紛争避難民緊急支援 (EA16/12)」10,000 USドル
(2) スリランカ「紛争帰還民定住支援 (EA17/12)」10,000 ユーロ

次回日程 2012年8月23日（木）11:00-16:00

正義と平和協議会

■事務局会議

日 時 2012年6月12日（火）15:00-17:00
場 所 さいたま教区本部事務局（埼玉・さいたま市）
出席者 6人

報 告

1. 練成会報告
6月2日から3日まで日本カトリック会館で林 尚志師（イエズス会）指導の練成会を行った。テーマは「3・11から一年、自・他の何が変わった！そしてこれから？」。参加者16人。
2. 講演会準備状況
日 時 7月7日（土）13:00-16:00
場 所 幼きイエス会 ニコラ・バレ修道院（東京・千代田区）
テーマ 「SOS! 日本国憲法」
講 師 水島朝穂さん（早稲田大学法学部教授）、高田 健さん（許すな！憲法改悪・市民連絡会）
3. 韓国・済州島訪問報告
5月28日から31日まで、済州島南部カンジョン村の中の海軍基地建設に反対運動を続ける済州教区への連帯のため訪問した。参加者13人。
5月28日（月）
済州島西部の旧日本軍軍事施設、済州戦争歴史平和博物館の見学。
カンジョン平和センター活動家訪問。

5月29日(火)

海軍基地建設現場前で行われる「百回礼」(祈りの集い)、路上ミサ参加。

4・3 平和記念館、平和公園訪問。

濟州教区長カン・ウイル司教訪問。

基地建設の現状と反対運動(濟州島の歴史と政治的背景、なぜ教会が基地建設に反対することを決定したのか)について話を聞いた。

5月30日(水)

路上ミサ参加。基地建設対策協議会訪問。

5月31日(木)

北村里ノブンスンイ 4・3 記念館(4・3 事件での虐殺地)、抗日記念館見学。

4. 宗教者九条の和シンポジウム

9月29日、仙台で行う。準備状況報告

5. 基地のない沖縄をめざす宗教者の会

11月17日、大阪で講演会を行う。準備状況報告

審 議

1. 貝塚教会(横浜教区)敷地内への川崎臨港警察の侵入と外国人逮捕(5月27日)について
梅村・横浜教区司教、本柳・主任司祭が川崎臨港警察署に送った申し入れへの応答が6月12日送られてきたので、これに基づき、来週の司教総会で対応が話し合われる。正義と平和協議会事務局としては、この動きを待ち、当面は静観とする。
2. 濟州島訪問の今後の展開について
沖縄の辺野古基地問題とのかかわりから、濟州島海軍基地建設反対の連帯行動を行っていくことを確認した。JP 通信7月号で報告記事を掲載する。全国集会長崎大会で展示を行う。
3. 2013年度全国集会開催地について
4. 全国集会長崎大会について
8月8日に長崎で事務局会議を行い、現地視察、最終確認を行う。
5. 次回定例会議(7月3日)議案の検討

■NCC 女性委員会

日 時 2012年5月31日(木) 10:30-13:00

場 所 神楽坂聖公会センター(東京・新宿区)

出席者 カトリックから1人

報 告

1. 各教派、団体からの報告
2. 日本軍「慰安婦」問題について
韓国・ソウルに「戦争と女性の人権博物館」が5月に開館した。それを記念する報告集会在6月9日東京で行われる。

審 議

1. 一泊研修会について
7月5日から6日まで、日本聖公会三鷹ナザレ修女会(東京・三鷹市)で一泊研修会を行う。内容は前総会期のまとめと今総会期の活動について討議する。
2. 日・韓・在日連帯交流会議について
2013年6月に上記会議を開催する。内容は一泊研修会で検討する。

3. 2012年度世界祈祷日献金先を協議し、決定した。

日本キリスト教連合会（日キ連）

■2012年度第1回常任委員会

日 時 2012年5月11日（金）17:00-18:20
場 所 ルーテル市ヶ谷センター 議長室・会議室（東京・新宿区）
出席者 9人
事務局 1人

報 告

東京都宗教連盟報告

- ・5月11日理事会が開かれた。
- ・10月26日（金）に研究協議会を開催する。
- ・カトリックからの理事が変わり、古賀正典師（東京教区）から浦野雄二師（東京教区）となった。

審 議

1. 2012年度第1回定例会日程等について

日時、テーマ等は以下の通りとする。

日時 2012年7月12日（木）13:30
場所 日本福音ルーテル東京教会（東京・新宿区）
テーマ 教会に対する税の問題（教会の課税問題）
講師 佐藤委員（講師については佐藤委員に付託する。）

2. 2012年度法人事務・会計実務研修会日程等について

日程は以下の通りとし、内容は例年通りとする。

また、今回から、研修会に参加するスタッフ（常任委員）には交通費を支給する。

開催日 2012年9月25日（火）-27日（木）
場所 富士箱根ランド（静岡・田方郡）

3. 会計基準検討委員会設置について

標記の件についての説明

- ・研究委員は4人程度とし、委員会開催数は5回の短期間とする。
- ・来年2月の常任委員会には最終答申案を提出する。
- ・作成した会計基準については、カトリック新聞等の新聞社、宗務課、宗務係等に公表する。また、ホームページでも公表する。
- ・基準は一定のルールとして、強制力はなく、参考である。

委員は以下の人に依頼する。

専門家2人 長岡淳三さん（インマヌエル）、繁田勝男さん
※前回候補としていた鈴木重義さん（バプテスト）にも確認する。

教職者1人 矢木良雄委員

信徒1人 佐藤丈史委員

4. 日キ連委員長任期について

渡邊委員長は、先日開催された所属教会の総会において議長が交代したこと、また、議長が日キ連委員長となっていたことを説明し、委員長の残任期間について諮った。

協議の後、引き続き渡邊委員長を日キ連委員長とし、また、日本宗教連盟理事も引き続き担当する。

次回日程

2012年度第2回常任委員会、第1回定例会

日時 2012年7月12日(木) 11:00 常任委員会
13:30 定例会

場所 日本福音ルーテル東京教会 会議室(東京・新宿区)

審議 1. 2012年度法人事務・会計実務研修会について
2. その他

外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会(外キ協)

■事務局会議

日時 2012年6月15日(金) 18:00-20:30
場所 日本キリスト教会館(東京・新宿区)
出席者 カトリックから1人

議 題

1. 改定入管法に反対し、「ともに生きる宣言」集会の検討

日時 2012年7月7日(土) 14:00-17:00

場所 在日本韓国YMCA スペースY(東京・千代田区)

資料代 500円

<プログラム>

第1部 改定法の「現在」を検証する

- ・外国人を徹底的に管理する改定法への全面批判
- ・「移住女性」を追い詰める改定法
- ・「労働者としての権利」を剥奪する改定法
- ・監視される“高度人材”留学生
- ・特別永住者は“特別”なのか
- ・「もう生きていけない」難民申請者
- ・「見えなくされてしまう」非正規滞在者
- ・「税金は取るが、サービスはしない」自治体

パフォーマンス(予定)

第2部 ともに生きる私たちは、主張する

- ・外国人住民からのアピール(*逐語通訳)
- ・各地・各団体からのアピール
- ・「ともに生きる宣言」朗読と行動呼びかけ
- ・うた

2. 第16回国際シンポジウムの概略について検討

日程 2012年10月29日(月)-31日(水)

場所 アカデミー・ハウス(韓国・ソウル)

名称 移住民(外国人住民)政策と人権に対する韓日国際シンポジウム

主題 多民族・多文化社会を迎えた韓・日・在日教会の宣教課題

主催 (韓国)韓国基督教会協議会正義と平和委員会

韓国教会在日同胞人権宣教協議会

韓国カトリック司教会議正義と平和委員会
(日本) 外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会
日本キリスト教協議会在日外国人の人権委員会

目 的 ①在日韓国・朝鮮人の人権獲得にかかわって 1970 年代から始められた日・韓・在日教会の共同の取り組みを、21 世紀東アジアにおいて今後どのように発展させるのかを協議する。
②新自由主義による格差社会、監視社会の進行、金融危機に端を発する「雇用災害」による移住者の排除と周縁化に対する日・韓・在日教会の「宣教課題」を定立する。

3. 第 4 回「青年の旅」について

日程が変更になったが、参加者が 6、7 人集まっているので準備会を行う事にする。

中央協議会事務局

■総務

8 月会議予定

3 日(金) - 5 日(日)	『ミサ典礼書』改訂委員会	マリアの家(長野・諏訪郡)
13 日(月)	学校教育委員会作業部会	イエズス会 岐部修道院(東京・千代田区)
23 日(木)	カリタスジャパン援助部会	日本カトリック会館
29 日(水)	『司牧の手引き』編纂特別委員会	カトリック広島司教館(広島市)

<会報 2012 年 8 月号 公文書>

「2012 年船員の日」委員長メッセージ

震災でつながった海の連帯

昨年の地震と津波から 10 か月が経った今年の 1 月、大船渡である出来事がありました。大船渡港に入ってきた米国の貨物船 (M/V *Inca Maiden*) には多くのフィリピン人船員がいましたが、その船には船員たちの使う水がなくて、大変困っていました。大船渡では震災で給水施設が壊れていて補給できない状態でしたが、船は次の寄港地ロシアまで行かなければならず、少なくとも 30 トンの水が必要だったのです。岩手県と大船渡市側は、水を供給できないと知った上で入港したのだからと対応してくれません。この件で AOS に関わっているフィリピン人司祭のところに連絡が入り、彼は AOS から支援を行ったことのある「三陸とれたて市場」の漁師に相談しました。漁師たちは、対応しない県と市の態度を詫びながらもすぐ行動を起こし、25 トンもの生活のための水を小さなトラックで、何と二日間もかけて運び続けたのです。乗組員たちは「これでシャワーも浴びられる」と大喜びをしたということです。水を運んだ漁師たちも、自分たちが震災の時に助けられたという思いもあり、同じ海で働く人たちの困った姿を見過ごすことはできないと駆けつけたのです。それぞれ困難な状況の中に置かれている者同士ですが、それだからこそ共感し合い、

つながっていったのでしょうか。乗組員たちにとって、どれほどうれしい水だったことでしょうか。それも暖かい心がこもった水を。

ふと耳にしたこの話も、私たちの知らないところで乗組員たちや漁師たちが毎日、いろいろな苦労や困難と直面しながら働いていることを改めて気づかせてくれた出来事だったと思います。そして、困難な中でもそれを他人事とは思わず駆け寄り仲間も多くいて、お互いに助け合っていることも知りました。私たちの多くは海で働いていませんが、実は海でつながっている仲間ではあるのです。すなわち、海の豊かさを漁師たちの働きを通して享受しているし、船員たちが運んでくる世界の物資によって生活が成り立っているからです。その意味では、私たちの生活は海でつながっているのです。だからこそ、あの駆けつけてくれた漁師たちと同じように、彼らを仲間として、支援していきたいと思います。私たちにできることは、“暖かい心のこもった水”としての祈りや訪船活動、あるいは献金などによる支援です。

「主よ、海で働く人々をいつも守り祝福してください。彼らが安全のうちに仕事を果たし、家族をはじめ、多くの人々とのつながりを日々深めていくことができますように」

2012年7月8日

日本カトリック難民移住移動者委員会
委員長 松浦悟郎（大阪教区補佐司教）

「2012年船員の日」委員長メッセージ 英語版

Message for “Seafarers Day” 2012

Earthquake Led to Maritime Solidarity

In January of this year, ten months after the earthquake and tsunami of last year, an event occurred in Ofunato City. An American cargo ship, the M/V Inca Maiden, which had many Filipino sailors, entered Ofunato harbor with a very serious problem since there was no drinking water onboard for the sailors. However, because of the earthquake and tsunami, the water supply facilities in Ofunato had been badly damaged and there was no way for fresh water to be resupplied even though the ship had to go to Russia for its next port of call and needed at least 30 tons of water. Since the ship had entered port, Iwate Prefecture and Ofunato City officials were aware that no water could be supplied, but they did nothing to deal with the situation. A Filipino priest involved with AOS was contacted and he went to consult with the fishermen of “Sanriku Fresh Fish Market” who had previously been given support from AOS. These fishermen, while apologizing for the unresponsive prefecture and city officials, immediately sprang into action, making many trips over a two day period with a small truck, they were somehow able to supply 25 tons of water from what had been set aside for their own lives. It has been reported that the crew was absolutely delighted and some said, “We can even shower with this water!” These fishermen who rushed to help still had memories of having been helped themselves at the time of earthquake, and so it was not possible for them to ignore others who worked on the same sea and were in trouble. These were all

people who had been placed in very difficult situations, and it was for that very reason they could empathize with each other and felt a common bond. For the crew, we can only imagine how wonderful this water was to them. Water straight from the warm hearts of those who cared !

This story, which I overheard, once again serves to remind us that everyday seafarers and fishermen, in ways unknown to us, are working in the face of many difficulties and hardships. Furthermore, we know that in the midst of these hardships, they still try to help one another, not by treating fellow seafarers as strangers, but in many cases, by rushing to aid them as friends. Even though many of us are not working at sea, we are still linked as friends by the sea. This is because we receive the bounty of the sea through the work of fishermen and our lives are made possible because the seafarers carry the worlds produce to us.

In this way, our lives are linked together by the sea. Therefore, like those fishermen who rushed to aid the seafarers, we too, as friends, should offer our aid as well. What we can do is offer, “water from our warm hearts” through prayer, by visiting the ships and by offering donations.

“Lord, always protect and bless those who work on the sea. May they be able to fulfill their work in safety, and may they daily deepen their connectedness, first with their own families, and then with many other people as well.”

July 8, 2012

Catholic Commission of Japan for Refugees, Migrants and People on the Move

Matsuura Goro (Auxiliary Bishop of Osaka), Chairperson

新刊書籍案内

※ 「イエスの祈り」 教皇ベネディクト十六世

カトリック中央協議会 「会報」 2012年8月号 (通巻494号)

発行日 2012年7月20日

発行 宗教法人カトリック中央協議会 <http://www.cbcj.catholic.jp>

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 電話 03-5632-4411 Fax 03-5632-4457